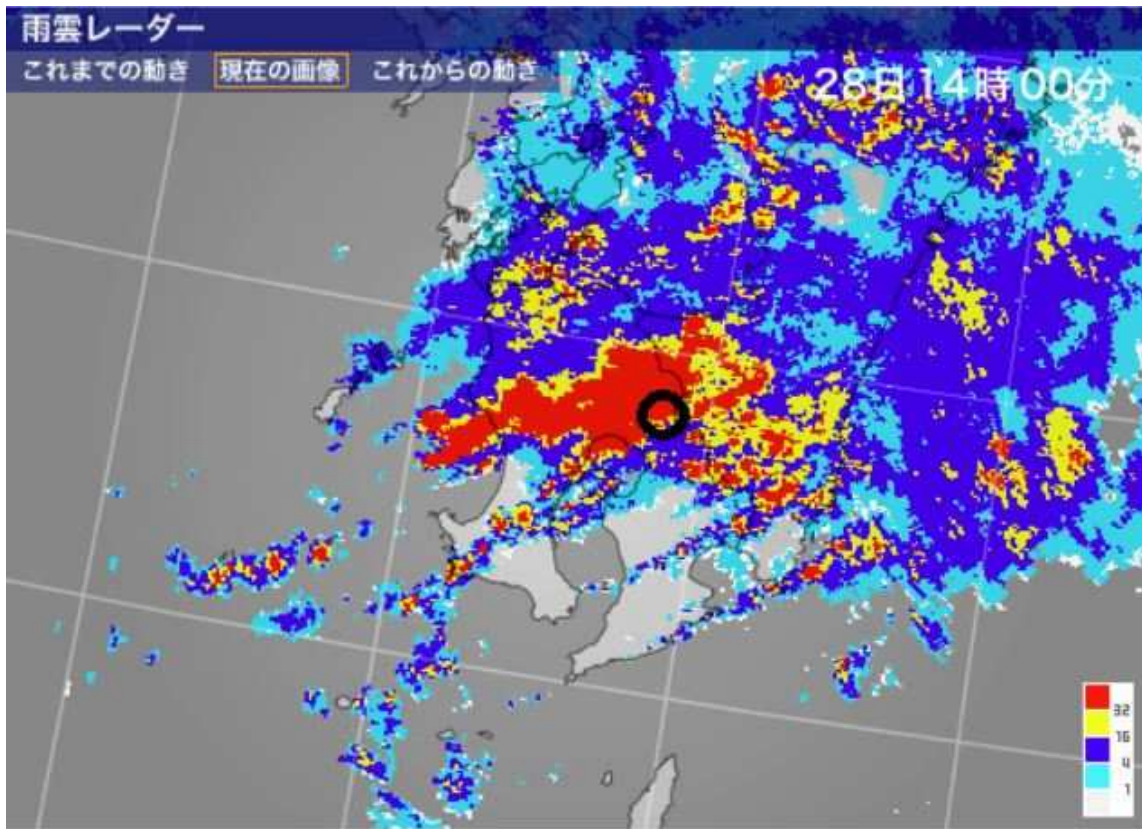


集中豪雨の記録 1

日時：2016.6.28(火) 場所：霧島市霧島大窪 雨量計設置場所：霧島市霧島総合支所

2016.6.28 風過ぎから激しい豪雨となった。梅雨末期状態の大雨である。午後2時ごろの状態は、身の危険を感じるぐらいの大雨だった。

鹿児島県河川情報システムとネットレーダーを確認、霧島も真っ赤、13~14時は52ミリの雨



夕方まで激しい雨に警戒



雨が小康状態にややなったので水路の見回りに出かけた。

霧島川を見てみた。濁流が音を立てて流れていた。前方は太田小学校



我が家の田んぼの水路利用の河川『相尾川』と『狩川』の下流部合流点の状況は以下のとおり



相尾川と狩川の源流域付近の 180ha の広大な急斜地に中国系資本による太陽光発電所建設計画があるようだ。その土地は、現況は雑木などの広葉樹や針葉樹の多い森林で、水源かん養機能が効いている自然の調整ダムとなっているが、この森林を造成して、人口的構造物を作った場合この程度の雨でも洪水発生は間違いないだろう。

52 ミリの一時間程度の雨で相尾川はあと 1m しか余裕はございません。しかも、狩川が大きく勢いが強いので相尾川の流れが止まる。

大きい川と小さい川の合流地点で水の逆流現象が発生する事は 2018 年 7 月、岡山県・真備町で発生した洪水で確認されている。

開発地からの排水は、相尾川を通さず、大きな暗渠を作り、直接霧島川にお流してください。

手籠川の源流域に林地開発している太陽光発電所施設設計画中の所では、24 時間に総雨量 130 ミリほどの雨でも調整池は埋まり、すぐ調整機能を失ったと聞いている。

その 2 倍を超す大きさ！ 霧島町の太陽光発電所建設計画 他人事ではない。

右側の狩川の水が流れて大きく左の相尾川の水が停滞している事が確認できる。

過去、ここは数回、河川災害で床上・床下浸水した原因ともいえる合流点である。



そして田んぼの水路への水取り入れ口の相尾川の状況を確認した。



小さな川ですので、橋脚まで70cmあるかないか。雨が治まってしばらくしてからの撮影でこの状態なので、豪雨最中は橋上部までの間隔はギリギリだったことでしょう

この相尾川には、太陽光発電所開発地域の排水流入の余地はまったくございません。

霧島地域では5~6年前に1時間に126ミリの豪雨がございましたので、それを考慮しても、まったく余地はございません。

さて、相尾川の水量が多くて、板を3枚外していても、勢いで水路に水が浸入していた。念のために最後の板を取り外そう！と思いましたがビクとも動きません。

近くの水利組合員もお手伝いいただき、ようやく外した。この流れに飲み込まれば、人は絶対死ぬなと思いながらの作業でした。

そして相尾水路を見まわりました。

水路上の霧島市道からの土砂水が落ちてきており10mほど埋まっている。





水をかけられないので、関係機関へ連絡、関係機関も、早く対応してくれて、業者さんも早速現場を見に来ていただきました。